



富士通グループのトランスストロン（本社・横浜市、加藤祐三社長）は十月二十四日から、ネットワーク型デジタルタコグラフ（運行記録計）で使える運行支援サービスで「エコアンドセイフティ運転評価オプション」を開始した。新たな運転評価方法を採用したのが特長で、自社と他社のドライバーの運転技術を比較できるランキンクスサービスも提供する。

（小林 孝博）

## トランスストロン

同社では現在、ネットワーク型デジタルタコ「DTS・C1」とドライブレコーダー機能を追加した「DTS・CID」を販売中。どちらも、富士通のネットワークとクラウドサービスを利用したリアルタイムの運行管理ができるのが特長だ。

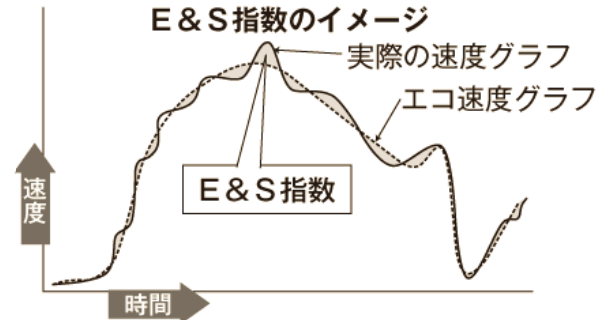
### 理想的な速度 グラフを作成

運行状況の動態管理が可能  
なほか、従来手動だった運行

管理ソフトや地図の更新などもすべて自動で行う。システムの維持更新だけでなく、初期費用を含めたユーザーの軽減した。運行支援や地図ソフト、Q&Aなどは一括サービスで提供し、月々の利用料も定額となっている。

# 運転評価で新基準導入

## 新サービスを開始



新たな評価制度は、理想的な速度と実際の速度の差の面積で加点される

これまでデジタルタコの採点方法は減点式で、ユーザーが設定した値を超えなければ高い得点が出ていた。「事業者の中にはデジタルタコを使った省エネの取り組みが頭打ちとなり、今後どのように指導すればいいかを相談されるケースが増えている」と情報機器事業推進部の酒井健二氏。

### 自社と他社との 運転を比較

ランキンクスは毎日更新。地域や車種、走行距離などで比較でき、ユーザーは自社のドライバーがどのくらい安全で、環境に優しい運転ができるかを確認できる。

「順位だけでなく、速度帯別の指数を確認できるのもメリット。まずはランキンクスサービスから使ってほしい」（同）。

先月から提供を始めたのは、いかに滑らかな速度で省エネ運転ができていたかを「見える化」する運転評価サービス。理想的な速度と実際の速度の差を「E&S指数」で数値化し、ドライバーの運転を評価する。

発売以来、売り上げを伸ばす「DTS・C1」

新サービスは、ドライバーの運転から理想的な速度グラフを作成。基準より急な加速や減速をするとその差が反映され、これまでより細かい運転指導が可能になった。

一台当たりの月額利用料は、エコアンドセイフティ運転評価サービスが千五百円、全国運転ランキンクスサービスが三百十五円（どちらも税込）。問い合わせ先は同社情報機器営業部、電話045(476)4640。